

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700051
法人名	有限会社 和みの会
事業所名	グループホーム春のうらら
所在地	大洲市新谷乙917-1
自己評価作成日	平成 28年 2月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 3月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた高台にあり、見晴も良く、季節を感じられます。特に秋の紅葉シーズンは、外を見るだけで秋を感じられます。施設においては、暖かい、ゆったりとした時間が安心して過ごせるように、職員一同努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は大洲中心部の高台に位置し見晴らしがよく、利便性がよい。すぐ近くには、観光地で有名な稲荷神社があり利用者も日常的にお参りに行くことが多い。平屋作りの広い建物に庭先や中庭にはテラスがあり、行事毎に利用者や家族とバーベキューを楽しんだりしている。利用者も広々とした中庭に自由に入ったりゆっくり過ごすことができる。職員は利用者に静かな場所でゆっくり温かな気持ちで生活してほしいと、雰囲気大切にしながら支援に努めている。新たな代表と施設長になり、前任者の思いを受け継ぎながらも自分たちのできることを模索しながら、よりよい事業所となるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム春のうらら

(ユニット名) 「菜の花」

記入者(管理者)  
氏名 西平憲司

評価完了日 平成 28年 2月 12日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 玄関ホール、又両ニットの中央ホールに「春のうららの運営理念」を提示して、「利用者その人らしさを大切にした介護」に心がけている。</p> <p>(外部評価) 毎月、職員会議で理念を共有し理解に努めている。新しい代表に交代し、月初めに訓示が行われるようになった。また理念を基に個人目標を掲げ、利用者の笑顔が続くようにケアの向上に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域との交流は、公民館主催の地区運動会、地域おこしの「ふるさと祭り」へ参加、地区内お寺の「花まつり」参加、地区内神社のお神輿受入れ、新谷保育園園児とのクリスマス会、新谷小学校生徒の福祉体験学習を行うなど日常的に地域交流をしている。</p> <p>(外部評価) 小学生の体験学習の受け入れを行っており、利用者と児童が頬を寄せ合った写真を微笑ましく見ることができた。運動会には案内をもらい、利用者もパン食い競争に参加するなどしている。毎年ふるさと祭りでは、コーナーををもらい事業所の紹介をしたりと地域との交流を図っている。近所の神社には日常的に出掛け、行き交う人に挨拶したり地区の清掃に参加したりして、地域との付き合いを大切にしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 毎年地域の公民館を中心に実施される、地域おこしの「ふるさと祭り」に参加させて頂き、テント一張りのスペースにて、「春のうらら写真館」として日々の活動状況をお知らせすると共に、利用者も参加し「綿菓子販売」をしながら地域の子供達との交流もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は、市職員・地域公民館長・民生委員・小学校長・介護相談員・他GH施設長・ご家族代表・利用者代表も参加して頂き、年6回実施、毎月の活動状況、両ユニットの利用者状態報告及び広報「うららだより」等もみて頂き、ご意見を頂くと共にその時々に応じた研修資料を提供し、理解と学びの場にもしている。	
			(外部評価) 市職員、公民館館長、民生委員、小学校校長、他事業所施設長、家族が参加し事業所の報告や意見交換がなされている。さらに今年から介護相談員がメンバーに加わった。訪問看護ステーションから看護師を招き「看取り」の勉強会を開催したり、利用者の家族から「人生論」の話しを聞いたりしてサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村との連携については、入居・退去時の報告、ケアプランの提出又運営推進会議に参加して頂き活動指導をして頂くと共に、大洲市全体のGH連絡会にも参加して頂き、法改定時等も緊密な連携で指導を頂いている。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加があり介護保険の内容や改正事項などの説明が行われている。利用者の状況やヒヤリハットの報告も速やかに行われ、事故の発生予防と再発防止について話し合いがされている。新代表が社会保険労務士であるため、市との連携は特にできていると認識している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 定期的に勉強会等を通して職員の理解に努めると共に、実践に繋げている。	
			(外部評価) 職員全員で身体拘束をしないケアに取り組み、言葉の拘束についても注意を払い意識している。「高齢者虐待防止、身体拘束について」の勉強会を開催して理解を深め実践につなげている。玄関の施錠はせず、利用者は庭先に出て自由に過ごすことができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会でも取り上げ、理解に努めると共に、虐待が見過ごされる事のないように、職員間でも注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援としては、利用者の程度に合わせて、調理の一部・配膳・食器洗い・御膳拭き等をして頂き出来るだけ生活感の維持を考慮、成年後見制度についてはスタッフの勉強会のテーマとして取り上げ研修、尚現在2名の方が制度利用、この1名は大洲市社会福祉協議会の職員からの相談を受け連携対応した経過もある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約等説明は、入居時「重要事項説明書」契約書及び関連書類の説明、利用料持込品等の説明をし理解を得ている。保険法等改定による契約内容の変更についても、追加承認を頂いている。その他ご家族の不安事項についても、誠意を持った対応に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者及び家族の意見は、面会時、ケアプラン意見確認時、家族合同行事の折り、又運営推進会議の中で家族代表から何う事となる。運営推進会議は両ユニット長、ケアマネージャーも参加する事から、職員まで意見が流れ運営に反映されていると思っている。  (外部評価) 面会時に家族から要望を聞くことが多い。施設長は利用者の困っていることや安全面に配慮し、家族から意見が言いやすいよう提案するなど声かけのしかたを工夫している。施設長は出された意見を検討し、すぐに実行するなどして即座に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 前年度までは、代表者と職員が1体1で意見交換を年度末に行い運営に反映させてきたが、前代表の体調不良から、今年度新体制となり最初の年度末であり、新代表者もしくは施設長にて同様の検討をしたい。	
			(外部評価) 職員からの意見を聞き、ベッド周りの収納ケースや転落防止のため床にすのこを敷き手作りマットを用意したりと、施設長は利用者の安全と安心を一番に考え自ら作成にかかわっている。シフト面においても職員が働きやすいよう配慮されている。前年度まで行われていた代表との個人面談を新代表も継続したいと検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 平成27年度より役員交代がなされ、職員個々の努力実績等により給与水準の見直し、労働体制その他やり甲斐と向上心が持てるよう、職場環境の改善整備が進められている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員を育てる取り組みについて、新体制の基本が職員一人一人の研修参加によるレベルアップと資格取得指導を基本に進められており、ゆとりある資格者取得の方向ですすんでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 平成24年6月に「大洲市グループホーム連絡会」が組織化され、大洲市の12グループホームが全参加で、それぞれの施設見学会の実施、情報交換又行政からの情報提供他グループホーム全体の資質向上研修検討会を共に進めている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、不安、要望に耳を傾け、良い関係が築ける様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 新しい入居者選定時、申込利用者のケアマネージャーとの連携を取り、利用者の現状ご家族の状況も確認、利用者ご家族共に施設を見て頂き、ご家族の不安要望も確認し、納得して頂き入居決定をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人家族の意向を元に、他のサービスを含めたなかで必要な支援が行える様に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の能力を見極めながら、出来る事については手伝って頂き、共に支えあえる様な立場で接する様に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方にも意見を求めながら、家族、職員が共に支える関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 受け身である事が多く、こちらからの働きかけが万全とは言えない。  (外部評価) 利用者の希望で日常的に近所の神社に参拝に行っている。家族の協力を得て、馴染みの美容室やお墓参りに行くこともある。カラオケや踊りのボランティアとは顔馴染みとなり、利用者の楽しみとなっている。毎年、家族や知人に年賀状を出しており、利用者自らペンをとり新年の挨拶を文字にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて職員が間に入り仲介する等、良好な関係が築けるように工夫している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて柔軟に対応できるように努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望、意向を尊重し、出来る限り本人本位に検討している。	
			(外部評価) 職員は日頃から利用者の言葉や表情を見逃さないよう、日常生活の中で思いや意向の把握に努めている。裏庭には家庭菜園があり白菜やねぎ、ブロッコリーが立派に育ち、利用者は水やりや採取を自由に行っている。中庭にも自由に出られ、制限を行わないことで利用者へのびのびと自分らしく過ごしてもらえるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に様々な事を聞き取りし、把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ミーティング、申し送り等で話し合い、情報を共有し把握している。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族の要望を踏まえ、本人の状態を加味した中で職員で話し合い、臨機応変に見直しを行い作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の要望を聞き、職員で話し合い介護計画を作成している。現在、スプーンを利用している利用者の家族から「指先を少しでも動かせるよう箸を使ってほしい」と要望があり、計画に取り入れ達成にむけて支援している。利用者の情報は介護記録や申し送りノートを活用し、職員全員で共有し臨機応変に見直しを行い、利用者本位の介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録、申し送りノート等を活用し、情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 訪問マッサージ、介護タクシー紹介、他ご家族が県外等の場合の入退院手続き他、行政手続き等の支援をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 公民館の行事、地域の運動会への参加等、本人の力を発揮しながら楽しめるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 個別、全体での主治医の往診、また、本人の病状に合 わせ家族と相談しながら様々な病院に通院出来る様に 支援している。	
			(外部評価) 現在、協力医である医療機関をかかりつけ医としてい る利用者が多い。受診の際は職員が同行し、結果を家 族にこまめに報告している。職員は医療連携記録簿を 活用し利用者一人ひとりの状態を把握するよう努めて いる。状態により協力医の往診があり、的確な判断の もと処置が行われるなど医療連携が取れ安心できる支 援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 医療連携記録簿を活用し、一人一人の状態の変化等、 相談、助言を記録している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院は、全て主治医との連携で、紹介状他情報提供頂 き、施設は日々のバイタル記録、介護状況等をつな ぎ、病院側の相談員との連携も家族の思い、施設の入 院限度等も理解して頂き、病院医師との連携も取っ て頂いている。尚病院の要望も有り、長期入院の場合退 居手続きを取るも、再申込み優先受入れも検討してい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 施設開設後約10年、重度化の利用者が増えており、 看取りについて勉強会はしているが、主治医と病院側 との好連携にて、今だ施設での看取りが無い（看取り 指針は作成してある。）ご家族の思いも主治医につな ぎながらの医療連携にて、ご家族にも理解を得てい る。	
			(外部評価) 看取り指針は定めているが、これまで医療連携によ って事業所で看取るまでには至っていない。指針は不定 期ではあるが見直しがされている。今後は重度者が 増えるなか、利用者の状態にあわせ適切な支援ができ るよう、研修等を重ねながら整備づくりを図ってい きたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に勉強会を行ったり、消防署の職員による、救急救命講習を行い職員の技術向上に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策については「原子力災害発生時の避難行動計画」「地震防災応急計画」「土砂災害・風水害防災計画」を策定し、職員の対応理解に努めている。一般の火災避難訓練は2ヶ月に一度実施しているが、施設外への訓練、地域住民連携訓練、真夜中の訓練に至っていない。 (外部評価) 年2回、うち1回は消防署立ち合いのもと避難訓練を行っている。後1回は心肺蘇生法を学び職員全員で理解に努めている。法人内全体の訓練も2ヶ月に1回実施し職員の意識向上につなげている。備蓄については米以外の品数を増やしていくことも検討している。	避難訓練には近隣住民の参加が少なく、挨拶を交わす交流もできていることから是非声かけを行い、同時に運営推進会議にも参加してもらうよう努力してほしい。会議に参加することで事業所内部の作りなどを理解してもらい、災害時などにいち早く動ける体制となるよう、また地域住民との交流を今以上に深めていくことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) なれ合いにならない様に職員同士気を付けている。 (外部評価) 利用者一人ひとりに寄り添いながら、体調にあわせ部屋で横になったり、庭先に出たりと利用者本位の支援に努めている。また、トイレの声かけやドアの開閉、肌の露出など羞恥心への配慮を大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 様々な場面で自己決定できるように声掛けしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の身体状態を見極めながら、その方のペースを大切にし、希望に出来る限り添えるように支援、努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 化粧、服装等、その方の希望に沿って支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の出来る事、出来ない事を見極めながら、食事の準備、調理等、一緒に行うよう支援している。	
			(外部評価) 時には利用者のリクエストを聞きながらメニューを決めたり、利用者と一緒におやつを作ったりしている。先月は利用者と恵方巻きを共に巻き縁起かつぎを行い、豆まきを楽しんだ。外出を兼ねて外食することもあり、食事が楽しめるよう工夫をしている。利用者は洗い物、台拭き、下ごしらえなど、できることは進んでしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の食事量、水分摂取量の把握、身体の状態に合わせた食事を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行う事が習慣になっている。本人の力量に合わせて介助、声掛け、見守りを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 声掛けし、トイレで排泄できるように支援している。	
			(外部評価) トイレは各ユニットに3ヶ所設置され、車イスでもゆとりをもって使用できる広さである。利用者の状態に合わせ紙パンツや夜間のみポータブルトイレを使用することもある。トイレの場所が分からない利用者には「トイレ」「便所」と書いたりしてわかりやすい工夫をしている。排泄表を用いて一人ひとりのパターンを把握し、早めに誘導しできるだけトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分の摂取、運動を行うと共に、便秘が改善されない方に対しては下剤の服薬等、個々に応じた対応をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望の時間での入浴は難しい事もあるが、楽しんで入浴できるように支援している。	
			(外部評価) 週2、3回の入浴を基本としている。入浴を嫌がる利用者には声掛けの方法等を工夫したり、入浴剤を入れたり季節感に浸れるようゆず湯や菖蒲湯にしたりするなど、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の状態に合わせて、日中居室で休める時間を設けたり、本人の希望に応じて眠れるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を職員がいつでも確認出来るように準備し、副作用等への理解に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その方の状態に合わせた力が発揮できる作業、レクリエーションの場を提供できるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人の希望に合わせての外出は難しく、あまり行っていない。全体での外出は季節にあわせた行先に出かけ、楽しめるように支援している。  (外部評価) 庭先や中庭のテラスが広く、菜園を見に行ったり外気浴をしたりと利用者は自由に行動している。近所の稲荷神社には日常的に出掛け、紅葉の観光地としても有名で人とふれあうきっかけとなっている。施設長は「もう少ししたらつくし採りに行きたい」と語っていた。散歩しながら季節を感じるよう取り計らっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 開設当初は、要介護の低い方が多く、入居時にお小遣いを預かり、買物の機会もつくっていたが、最近では利用による金銭管理ができない事から、施設長預かりとしていた。現在の利用者の大半は介護度も上がり購買意欲もなく買物活動はしていない。意欲のある方はご家族との外出時に取組みを願っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望がある場合は、その都度対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 安心した暖かい雰囲気が作れるよう配慮し、工夫している。	
			(外部評価) リビングは食卓コーナー、ソファコーナー、畳スペースと広い作りとなっている。。畳は掘りコタツとなっており足に負担もなくゆっくり過ごすことができる。壁には利用者の行事写真やぬり絵、お雛様の飾りつけがされ季節毎に交換されている。明るく、整理整頓ができており気持ちよく過ごすことができる空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 室内、屋外思い思いの場所で過ごせるように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が利用していた物を持ち込んで頂き、使用できるようにしている。基本的に持ち込みの禁止はしていない。	
			(外部評価) ベッド、洗面台、タンス、エアコンが備え付けとなっている。テレビ、観葉植物、家族写真や利用者の若かりし頃の写真など、それぞれに利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。利用者の好みなのか沢山の帽子が揃えられたり、位牌を持ち込み個性が出た部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 本人の状態を把握し、出来ない事、本人一人では難しい事については介助、声掛けしている。できる事は出来る限り自分の力で出来るように支援している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700051
法人名	有限会社 和みの会
事業所名	グループホーム春のうらら
所在地	大洲市新谷乙917-1
自己評価作成日	平成 28年 2月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 3月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

もみじ山の麓にあり、自然豊かで静かな環境の中にあります。裏に回ると家庭菜園が楽しめる畑があり、そこから見える景色は爽快です。テラスでは、ハーベキューやその他の行事を楽しんでいます。職員は利用者の思いを受け止め、安心・安楽な暮らしが送れるよう、心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は大洲中心部の高台に位置し見晴らしがよく、利便性がよい。すぐ近くには、観光地で有名な稲荷神社があり利用者も日常的にお参りに行くことが多い。平屋作りの広い建物に庭先や中庭にはテラスがあり、行事毎に利用者や家族とバーベキューを楽しんだりしている。利用者も広々とした中庭に自由に入りしゆつくり過ごすことができる。職員は利用者に静かな場所でゆつくり温かな気持ちで生活してほしいと、雰囲気大切にしながら支援に努めている。新たな代表と施設長になり、前任者の思いを受け継ぎながらも自分たちのできることを模索しながら、よりよい事業所となるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム春のうらら

(ユニット名) 「つくしんぼ」

記入者(管理者)

氏名 丸見恵美子 ・ 門屋勝子

評価完了日 平成 28年 2月 12日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 玄関ホール、又両ニットの中央ホールに「春のうららの運営理念」を提示して、「利用者その人らしさを大切にした介護」に心がけている。</p> <p>(外部評価) 毎月、職員会議で理念を共有し理解に努めている。新しい代表に交代し、月初めに訓示が行われるようになった。また理念を基に個人目標を掲げ、利用者の笑顔が続くようにケアの向上に努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域との交流は、公民館主催の地区運動会、地域おこしの「ふるさと祭り」へ参加、地区内お寺の「花まつり」参加、地区内神社のお神輿受入れ、新谷保育園園児とのクリスマス会、新谷小学校生徒の福祉体験学習を行うなど日常的に地域交流をしている。</p> <p>(外部評価) 小学生の体験学習の受け入れを行っており、利用者と児童が頬を寄せ合った写真を微笑ましく見ることができた。運動会には案内をもらい、利用者もパン食い競争に参加するなどしている。毎年ふるさと祭りでは、コーナーををもらい事業所の紹介をしたりと地域との交流を図っている。近所の神社には日常的に出掛け、行き交う人に挨拶したり地区の清掃に参加したりして、地域との付き合いを大切にしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 毎年地域の公民館を中心に実施される、地域おこしの「ふるさと祭り」に参加させて頂き、テント一張りのスペースにて、「春のうらら写真館」として日々の活動状況をお知らせすると共に、利用者も参加し「綿菓子販売」をしながら地域の子供達との交流もしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議は、市職員・地域公民館長・民生委員・小学校長・介護相談員・他GH施設長・ご家族代表・利用者代表も参加して頂き、年6回実施、毎月の活動状況、両ユニットの利用者状態報告及び広報「うららだより」等もみて頂き、ご意見を頂くと共にその時々に応じた研修資料を提供し、理解と学びの場にもしている。</p> <p>(外部評価) 市職員、公民館館長、民生委員、小学校校長、他事業所施設長、家族が参加し事業所の報告や意見交換がなされている。さらに今年から介護相談員がメンバーに加わった。訪問看護ステーションから看護師を招き「看取り」の勉強会を開催したり、利用者の家族から「人生論」の話しを聞いたりしてサービスの向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市町村との連携については、入居・退去時の報告、ケアプランの提出又運営推進会議に参加して頂き活動指導をして頂くと共に、大洲市全体のGH連絡会にも参加して頂き、法改定時等も緊密な連携で指導を頂いている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に参加があり介護保険の内容や改正事項などの説明が行われている。利用者の状況やヒヤリハットの報告も速やかに行われ、事故の発生予防と再発防止について話し合いがされている。新代表が社会保険労務士であるため、市との連携は特にできていると認識している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 勉強会を行い「身体拘束虐待防止」を取り上げ理解している。日中は玄関の施錠は行っていない。</p> <p>(外部評価) 職員全員で身体拘束をしないケアに取り組み、言葉の拘束についても注意を払い意識している。「高齢者虐待防止、身体拘束について」の勉強会を開催して理解を深め実践につなげている。玄関の施錠はせず、利用者は庭先に出て自由に過ごすことができている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 不適切な言動がないよう職員間で注意し、勉強会でも取り上げ取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援としては、利用者の程度に合わせて、調理の一部・配膳・食器洗い・御膳拭き等をして頂き出来るだけ生活感の維持を考慮、成年後見制度についてはスタッフの勉強会のテーマとして取り上げ研修、尚現在2名の方が制度利用、この1名は大洲市社会福祉協議会の職員からの相談を受け連携対応した経過もある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約等説明は、入居時「重要事項説明書」契約書及び関連書類の説明、利用料持込品等の説明をし理解を得ている。保険法等改定による契約内容の変更についても、追加承認を頂いている。その他ご家族の不安事項についても、誠意を持った対応に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者及び家族の意見は、面会時、ケアプラン意見確認時、家族合同行事の折り、又運営推進会議の中で家族代表から伺う事となる。運営推進会議は両ユニット長、ケアマネージャーも参加する事から、職員まで意見が流れ運営に反映されていると思っている。  (外部評価) 面会時に家族から要望を聞くことが多い。施設長は利用者の困っていることや安全面に配慮し、家族から意見が言いやすいよう提案するなど声かけのしかたを工夫している。施設長は出された意見を検討し、すぐに実行するなどして即座に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 前年度までは、代表者と職員が1体1で意見交換を年度末に行い運営に反映させてきたが、前代表の体調不良から、今年度新体制となり最初の年度末であり、新代表者もしくは施設長にて同様の検討をしたい。	
			(外部評価) 職員からの意見を聞き、ベッド周りの収納ケースや転落防止のため床にすのこを敷き手作りマットを用意したりと、施設長は利用者の安全と安心を一番に考え自ら作成にかかわっている。シフト面においても職員が働きやすいよう配慮されている。前年度まで行われていた代表との個人面談を新代表も継続したいと検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 平成27年度より役員交代がなされ、職員個々の努力実績等により給与水準の見直し、労働体制その他やり甲斐と向上心が持てるよう、職場環境の改善整備が進められている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員を育てる取り組みについて、新体制の基本が職員一人一人の研修参加によるレベルアップと資格取得指導を基本に進められており、ゆとりある資格者取得の方向ですすんでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 平成24年6月に「大洲市グループホーム連絡会」が組織化され、大洲市の12グループホームが全参加で、それぞれの施設見学会の実施、情報交換又行政からの情報提供他グループホーム全体の資質向上研修検討会を共に進めている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居後は、環境に慣れていただくような声掛けを心がけ、不安に思っていることや気になることがあれば、統一した対応ができるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 新しい入居者選定時、申込利用者のケアマネージャーとの連携を取り、利用者の現状ご家族の状況も確認、利用者ご家族共に施設を見て頂き、ご家族の不安要望も確認し、納得して頂き入居決定をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人家族の要望を聞き「支援できること」を行っている。他のサービスには訪問マッサージ、介護タクシーの利用がある。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の能力を見極め、可能な部分は自力で行っていたき手を出しすぎないように見守りしている。家事や軽作業も行っていただいている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族参加の行事計画を立てて対応している。物品購入や通院介助など声掛けして行っていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人、知人が気軽に面会に来られるよう、雰囲気づくりに努めているが、年々面会が減ってきているように思う。	
			(外部評価) 利用者の希望で日常的に近所の神社に参拝に行っている。家族の協力を得て、馴染みの美容室やお墓参りに行くこともある。カラオケや踊りのボランティアとは顔馴染みとなり、利用者の楽しみとなっている。毎年、家族や知人に年賀状を出しており、利用者自らペンをとり新年の挨拶を文字にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合う者同士が交流できるよう考慮した席の配置を心がけている。一人の時間も大切にしているよう支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方が入院されている場合見舞いに行き、状態確認するなどの支援をしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションをとる中で、本人の要望、意向を把握できるよう努めている。	
			(外部評価) 職員は日頃から利用者の言葉や表情を見逃さないよう、日常生活の中で思いや意向の把握に努めている。裏庭には家庭菜園があり白菜やねぎ、ブロッコリーが立派に育ち、利用者は水やりや採取を自由に行っている。中庭にも自由に出られ、制限を行わないことで利用者へのびのびと自分らしく過ごしてもらえるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 情報提供書や生活歴を見ながら、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活、動作、会話などや介護記録、申し送りなどでも把握し共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人と家族の意向を確認した後、カンファレンスを行いケアプランを作成している。職員の意見やアイデアを反映させている。月1回の評価も行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の要望を聞き、職員で話し合い介護計画を作成している。現在、スプーンを利用している利用者の家族から「指先を少しでも動かせるよう箸を使ってほしい」と要望があり、計画に取り入れ達成にむけて支援している。利用者の情報は介護記録や申し送りノートを活用し、職員全員で共有し臨機応変に見直しを行い、利用者本位の介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録、申し送りなどにより情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 訪問マッサージ、介護タクシーの利用などがある。ニーズに応じた柔軟な対応ができるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 病院、公民館、介護相談員、訪問美容室、ボランティアなど地域の人や場を借りて豊かな暮らしになるよう支援している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的な往診、症状に応じた受診を支援している。  (外部評価) 現在、協力医である医療機関をかかりつけ医として いる利用者が多い。受診の際は職員が同行し、結果を家 族にこまめに報告している。職員は医療連携記録簿を 活用し利用者一人ひとりの状態を把握するよう努めて いる。状態により協力医の往診があり、的確な判断の もと処置が行われるなど医療連携が取れ安心できる支 援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週1回の訪問看護にて、体調の変化や気づいた事など 相談し記録に残している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院は、全て主治医との連携で、紹介状他情報提供頂 き、施設は日々のバイタル記録、介護状況等をつな ぎ、病院側の相談員との連携も家族の思い、施設の入 院限度等も理解して頂き、病院医師との連携も取っ て頂いている。尚病院の要望も有り、長期入院の場合退 居手続きを取るも、再申込み優先受入れも検討してい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 施設開設後約10年、重度化の利用者が増えており、 看取りについて勉強会はしているが、主治医と病院側 との好連携にて、今だ施設での看取りが無い（看取り 指針は作成してある。）ご家族の思いも主治医につな ぎながらの医療連携にて、ご家族にも理解を得てい る。  (外部評価) 看取り指針は定めているが、これまで医療連携によ って事業所で看取るまでには至っていない。指針は不 定期ではあるが見直しがされている。今後は重度者が 増えるなか、利用者の状態にあわせ適切な支援ができ よう、研修等を重ねながら整備づくりを図っていきた いと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会を通し実践しているが、身につけているかは不安である。夜間緊急時の対応マニュアルは提示している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策については「原子力災害発生時の避難行動計画」「地震防災応急計画」「土砂災害・風水害防災計画」を策定し、職員の対応理解に努めている。一般の火災避難訓練は2ヶ月に一度実施しているが、施設外への訓練、地域住民連携訓練、真夜中の訓練に至っていない。  (外部評価) 年2回、うち1回は消防署立ち合いのもと避難訓練を行っている。後1回は心肺蘇生法を学び職員全員で理解に努めている。法人内全体の訓練も2ヶ月に1回実施し職員の意識向上につなげている。備蓄については米以外の品数を増やしていくことも検討している。	避難訓練には近隣住民の参加が少なく、挨拶を交わす交流もできていることから是非声かけを行い、同時に運営推進会議にも参加してもらうよう努力してほしい。会議に参加することで事業所内部の作りなどを理解してもらい、災害時などにいち早く動ける体制となるよう、また地域住民との交流を今以上に深めていくことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 毎日の生活の中で、馴れ合いになってしまわないよう、言葉かけの対応をしている。  (外部評価) 利用者一人ひとりに寄り添いながら、体調にあわせ部屋で横になったり、庭先に出たりと利用者本位の支援に努めている。また、トイレの声かけやドアの開閉、肌の露出など羞恥心への配慮を大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 決めつけるのではなく、選択肢を設けて自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にしているが、共同生活の部分も考慮しながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みや気分を大事にして、清潔感ある身だしなみを整えていただくように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の用意も役割分担しながら、職員とともにしている。食後の下膳や後片づけも一緒に行っている。	
			(外部評価) 時には利用者のリクエストを聞きながらメニューを決めたり、利用者と一緒におやつを作ったりしている。先月は利用者と恵方巻きを共に巻き縁起かつぎを行い、豆まきを楽しんだ。外出を兼ねて外食することもあり、食事が楽しめるよう工夫をしている。利用者は洗い物、台拭き、下ごしらえなど、できることは進んでしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立作成は当番制で立てているが、栄養バランス面ではどうかかわからない。食事の形態は個人の状態に応じてきざみ食、とろみ使用などで対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後のケアの実施はできている。夕食後は、義歯の人は入れ歯洗浄剤を使って清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表をかつようして、間隔の把握や行動など確認しトイレでの排泄が行えるよう努めている。	
			(外部評価) トイレは各ユニットに3ヶ所設置され、車イスでもゆとりをもって使用できる広さである。利用者の状態に合わせ紙パンツや夜間のみポータブルトイレを使用することもある。トイレの場所が分からない利用者には「トイレ」「便所」と書いたりしてわかりやすい工夫をしている。排泄表を用いて一人ひとりのパターンを把握し、早めに誘導しできるだけトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の栄養バランスを考えたり、水分、運動量、便秘薬の服用など予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) それぞれの希望の時間に合わせることは難しいが、入浴剤などを使って楽しんでもらっている。	
			(外部評価) 週2、3回の入浴を基本としている。入浴を嫌がる利用者には声掛けの方法等を工夫したり、入浴剤を入れたり季節感に浸れるようゆず湯や菖蒲湯にしたりするなど、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) それぞれの就寝時間があるので、表情や状態を見ながら声掛け支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服薬説明書を置き確認できるようにしている。また、変更等があれば申し送りでも共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの得意な面を生かしていただくよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に沿うのは難しいが、季節ごとに外出できるよう支援している。日常的には庭や畑に出てちょっとした散歩ができるよう見守りをしている。  (外部評価) 庭先や中庭のテラスが広く、菜園を見に行ったり外気浴をしたりと利用者は自由に行動している。近所の稲荷神社には日常的に出掛け、紅葉の観光地としても有名で人とふれあうきっかけとなっている。施設長は「もう少ししたらつくし採りに行きたい」と語っていた。散歩しながら季節を感じるよう取り計らっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 開設当初は、要介護の低い方が多く、入居時にお小遣いを預かり、買物の機会もつくっていたが、最近では利用による金銭管理ができない事から、施設長預かりとしていた。現在の利用者の大半は介護度も上がり購買意欲もなく買物活動はしていない。意欲のある方はご家族との外出時に取組みを願っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば電話をつなぎ、話をしていただき相手の都合や時間を考えて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 広いスペースと明るい空間が保たれており、壁には写真や季節感のあるモニュメント等を飾って工夫している。	
			(外部評価) リビングは食卓コーナー、ソファコーナー、畳スペースと広い作りとなっている。。畳は掘りコタツとなっており足に負担もなくゆっくり過ごすことができる。壁には利用者の行事写真やぬり絵、お雛様の飾りつけがされ季節毎に交換されている。明るく、整理整頓ができており気持ちよく過ごすことができる空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ベンチで日光浴をしたり、ホール内でも自由に自分の居場所を見つけて過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の作品を飾ったり、使い慣れたものを置いたり居心地良い工夫をしている。	
			(外部評価) ベッド、洗面台、タンス、エアコンが備え付けとなっている。テレビ、観葉植物、家族写真や利用者の若かりし頃の写真など、それぞれに利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。利用者の好みなのか沢山の帽子が揃えられたり、位牌を持ち込み個性が出た部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者は自立歩行、歩行器、車椅子と様々であるため、安全面を重視して廊下に物を置かないようにしている。転倒防止や清潔保持に努めている。	